

課題・目的

- 県民にとって最も身近な生涯学習の提供主体は市町村であるが、市町村の規模によりその推進体制に差がある。
- 市町村ヒアリングの結果、特に、講座を運営していくための企画力、講師確保のネットワーク等の情報の入手に課題を抱えており、講座の企画や講師の情報を求める意見が多い。
- また、県民の生涯学習意識調査において、この1年間で生涯学習をしたことがない理由について、約半数の人が「忙しくて時間がない」と回答しており、時間・場所を問わずに学べる環境づくりが求められている。
- 講座の開催情報等、生涯学習機会に関する情報を集約・発信し、時間を問わず学べるオンラインコンテンツ（生涯学習動画等）を配信するシステム（ポータルサイト）を構築し、住民のニーズに応じていく。

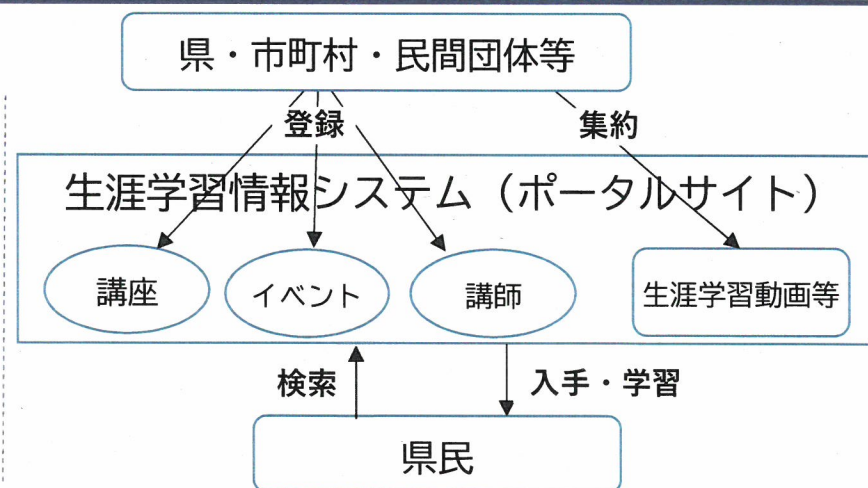
生涯学習イメージキャラクター
「マナビィ」
©文部科学省



事業概要

○生涯学習情報システム（ポータルサイト）

- ・ 県庁内、市町村、各種学校等が提供する講座、イベント、発表会等を自ら登録。県民が自らのニーズに基づき検索。
- ・ 大学教授、語り部等の専門分野の講師人材を県、市町村が登録。
- ・ 県、市町村が有するオンライン学習コンテンツを集約し、ニーズに合わせて配信



目指す姿

～学び合い、支え合い、地域が輝く。次世代へつなぐ 生涯学習社会ふくしま～
(福島県生涯学習基本計画) を、DX支援により実現する

【新】生涯学習情報システム構築事業

事業の背景・期待される成果

< 提供側（市町村）の現状 >

【役場担当者の声】

- ・主に広報誌で講座情報を提供しているが、**参加者が高齢者中心で毎回同じ顔ぶれ。**
- ・ノウハウ・マンパワー不足により、企画、運営がより困難に。講座の企画に当たり、**他市町村の講座の事例や講師の情報を参考にしたい。**（51/52市町村が回答）

< 受け手（県民）の意識 >

【生涯学習をする上で、行政に期待すること】

- ・学習・スポーツ・文化活動等の**情報を充実してほしい** 36.7%(1位)
- ・**講座の種類や回数を増やしてほしい** 25.0%(3位)

【生涯学習をしたことがない人の理由】

- ・仕事や家事などが忙しく**時間がない** 47.2%(1位)

令和3年3月「県民の生涯学習意識調査」

求められているもの

情報提供手段・内容の充実

企画力の向上

市町村間の連携

時間・場所を選ばない学習機会

システム構築+働きかけ

市町村・民間団体等の**豊富な講座情報を把握**しており、**市町村間の格差を是正し、連携を支援する立場**である県がシステムを構築

生涯学習情報システム (ポータルサイト)

- ・講座、講師、イベント情報の登録
- ・開催・イベント開催情報の検索
- ・講座開催実績（参加者数、属性等）の検索
- ・講師情報の検索
- ・生涯学習動画配信

+

市町村連携のコーディネート

- ・講座の参加対象の拡充（他市町村）を依頼
- ・近隣市町村で講座の重複や役割分担を調整。ニーズの高い講座を効率的に実施

ニーズ分析、事例把握、市町村連携が可能に

市町村のメリット

- ・市町村間の役割分担が進み、**限られたリソースで効果的に学習機会を提供**
- ・講座のトレンドや、開催実績（参加者数や属性等）を分析しより**精度の高い住民ニーズの把握が可能**に
- ・他講座事例や講師情報を参考に、これまでなかった講座の企画が可能となり、**新たな参加者層を獲得**
- ・近隣市町村住民の参加により**講座受講者が増加**

学習機会・情報の充実

利用者のメリット

- ・身近な市町村で、多様な講座が開催され、**学びの選択肢が増える**
- ・検索機能により**学習ニーズに合った講座が探せる**
- ・デジタルコンテンツにより**いつでもどこでも学べる**